

ヒメグモ科の胚盤期胚のSEMによる観察

鈴木浩文・近藤昭夫

Hirohumi SUZUKI and Akio KONDO: SEM observation of the embryos in germ disk stage of a theridiid spider, *Achaearanea japonica* *

Department of Biology, Faculty of Science, Toho University, 2-1, Miyama 2 chome, Funabashi-shi, Chiba 274, Japan

胚盤の形成にはクモの種類により特徴的な過程が知られている。ヒメグモ科の卵ではほとんどの胞胚葉細胞が将来胚盤の形成される区域に移動し、少数の胞胚葉細胞が胚盤の形成されない区域に残留する。今回の研究ではこれらの残留細胞が孤立して存在するのかどうかをSEMによる観察で明らかにすることを目的とした。

材料としてヒメグモ科のヒメグモ *Achaearanea japonica* (Bös. et Str.)を用いた。少数の卵を卵塊からとりだし流動パラフィン中で発生を観察し、残りをSEM用試料としてFAAで固定した。固定後、卵膜を除去した。脱水、臨界点乾燥後、金を真空蒸着しSEMで観察した。

胚盤は直径約 $15\mu\text{m}$ の球形な細胞で構成されていた(Fig. 1)。胚盤の形成されない区域に残留する細胞は直径約 $20\mu\text{m}$ であり、これらの細胞は卵黄顆粒のあいだに仮足状の突起をのばしていた(Fig. 2)。この突起により残留細胞は胚盤を構成する細胞と、また残留細胞どうし接触していた。

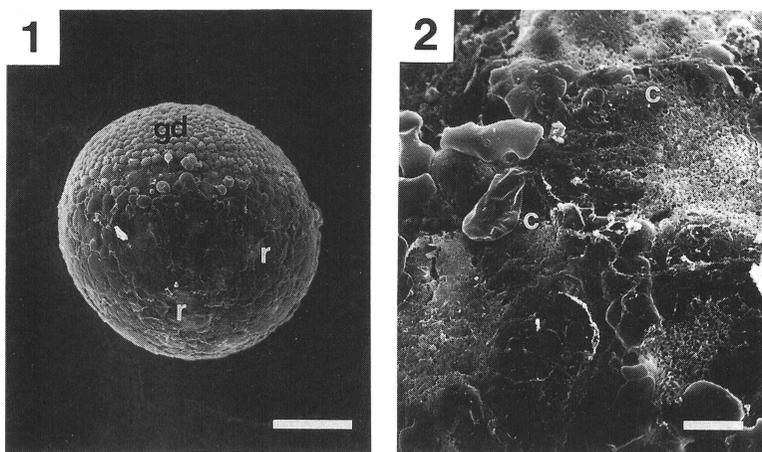


Fig. 1 The embryo at germ disk stage in *Achaearanea japonica*. Scale= $100\mu\text{m}$. gd: germ disk, r: remaining cell.

Fig. 2 Remaining cells. Scale= $10\mu\text{m}$. c: contact between remaining cells.

* Abstract of paper read at the 25th Annual Meeting of Arthropodan Embryological Society of Japan, May 20-21, 1989 (Tsukuba, Ibaraki).